

(案)

総合整備計画書

(第 次変更)

岐阜県恵那市飯地辺地
(辺地の人口 574 人 面積 19.2 K m²)

1 辺地の概況

- (1) 辺地を構成する町又は字の名称 飯地町
- (2) 地域の中心の位置 恵那市飯地町 199 番地 2
- (3) 辺地地点数 123 点

2 公共的施設の整備を必要とする事情

飯地町は、当市の北西部に位置し平均的な標高が 600 メートルほどの高原エリアの山あい小集落が散在している。町内の人口は、少子高齢化の進行により減少しており、高齢化率も 44.42%と、今後、生産年齢人口の増加が見込めない場合は、集落を維持していくことも困難となることが予測され、持続可能な地域づくりが急務である。

このような状況の中、飯地町では町内の歌舞伎小屋「五毛座」を活動拠点に地歌舞伎が盛んであり、地域ぐるみで公演活動をしている。飯地町の地歌舞伎の歴史は古く、天保年間まで遡る。当時から大衆の娯楽として村芝居として上演されてきた歴史を背景に、昭和 27 年有志による「飯地歌舞伎同好会」が結成され、現在は「飯地歌舞伎保存会」と名称を変えて五毛座を活動拠点に地歌舞伎の保存伝承に努めている。主な活動は、地元子どもたちや住民も出演する自主公演や、各種大会への参加、地域の小中学生による地域の敬老会での子ども歌舞伎の上演など地域ぐるみの公演活動を行い、地域の交流や活性化にもつながっている。

活動拠点となる五毛座は、昭和 26 年に公民館として建築され結婚式場や教室として活用されてきた。昭和 58 年に飯地公民館（現在の飯地コミュニティセンター）が新築されたため、旧公民館は地歌舞伎専用施設となり現在に至る。また当施設は、平成 22 年に国の登録有形文化財に指定され、文化財でありながら地域のひとつの拠点として活用され、伝統文化の継承の場、地域交流の場だけでなく、地歌舞伎ファンなど関係人口拡大のきっかけになり、持続可能な地域づくりのためにはならない地域の象徴としての施設である。しかしながら建築から 71 年経過しており、経年劣化により本来使用できる機能が発揮できていない、新たな取り組みに対応できる設備がないなど、建物及び設備の修繕や機能回復など早急に整備が必要な状況である。

このように五毛座は、持続可能なまちづくりに必要不可欠な施設であるため、早急の整備が必要である。

3 公共的施設の整備計画

令和 5 年度から令和 5 年度まで 1 年間

(単位 千円)

| 施設名 | 事業主体名 | 区分 | 事業費 | 財源内訳 | | 一般財源のうち 辺地対策事業債の 予定額 |
|-----|---------|----|------------|------|--------|----------------------------|
| | | | | 特定財源 | 一般財源 | |
| 五毛座 | 飯地町地縁団体 | | (85,460) | | 85,460 | 85,460 |

| | | | | | |
|-----|--|------------|--|--------|--------|
| | | () | | | |
| 合 計 | | (85,460) | | 85,460 | 85,460 |

(注) ()は全体事業費

当 初 計 画 策 定 令和5年9月 日

第1次変更計画策定 令和 年 月 日

第2次変更計画策定 令和 年 月 日